

地域おこし協力隊 活動報告（3年目）

令和4年7月～令和5年6月

文化芸術振興部門 / 野津原地域
泊麻未

発表内容

自己紹介・任務内容

1 活動報告

任務①ミッション ※アートレジオン関係

任務②フリーミッション

任務③協力隊として参加した業務

※卒業後に向けた個人活動

2 活動の成果、活動を通じて得たこと

3 卒業後



野津原グリーン
スローモビリティ
キービジュアル

自己紹介

泊麻未（とまりあさみ）

- 1993年、宮崎県出身。
- 東京の大学を卒業後、ニューヨークへ1年ほど滞在。現地の美術館やギャラリー、美術系大学、シェアアトリエ、若手アーティストのコミュニティを巡りながら、アートを通じて形成される地域コミュニティの場を目の当たりにする。
- 帰国後、東京と宮崎を中心に「トマリアサミ」としてアート活動を行いながら、地域アートを経験できる場所を探していたところ、大分市の旧校舎アトリエの存在と協力隊募集を知る。
- 令和2年7月1日より協力隊として野津原に移住。

▼ガレリア竹町にあるシャッターの作品
(令和2年度アートを活かしたまちづくり事業)



任務内容

泊 麻未（とまり あさみ） 隊員



- 令和2年7月1日 着任
- 文化振興課 所属
- 文化芸術振興部門

1. アートレジオン推進事業に関する業務（アトリエを始め旧校舎全体の管理、ワークショップの講師、アトリエ利用者や地域住民との連絡調整など）
2. アートのスキルを活かした地域活性化の企画・支援

▲大分市HP
協力隊紹介ページより

文化芸術振興部門 文化振興課 所属

勤務先：野津原支所
ななせアートスタジオ（旧野津原中部小学校）

任務① ミッション

アートレジオン推進事業に関する業務

- ・アトリエを始め旧校舎全体の管理
- ・ワークショップの講師
- ・アトリエ利用者や地域住民との連絡調整など

任務② フリーミッション

アートのスキルを活かした地域活性化の企画・支援

大分市アートレジオン推進事業とは

人口減少や少子高齢化が進む**周辺地域に市内外からアーティストを呼び込み**、アートイベントや制作活動を通して**文化芸術の振興**を図るとともに、**地域住民との交流を促進**することで**地域の活性化**につなげる。



大分市HPアートレジオン推進事業のページより一部抜粋

事業の2本の柱

アーティストの移住・定住促進

地方への移住を考えているアーティストに対して、本市へ興味をもっていただくための各種取組を推進することで、潜在的な移住希望者の掘り起しを図る。
また、地域おこし協力隊と連携・協力を図り、任期後の定住につなげる。

アートイベント開催による地域の活性化等

アーティストと地域が連携したアートイベントを開催し、市内外から参加してもらうことで文化芸術の振興・地域の活性化を図る。
また、佐賀関地区の旧大志生木小学校と野津原地区の旧野津原中部小学校の校舎一部をアトリエとして活用するとともに、地域とアーティストとの交流拠点とする。

1 活動報告

任務①ミッション ※アートレジオン関係

任務②フリーミッション

任務③協力隊として参加した業務



高崎山自然動物園
70周年ロゴ

任務① ミッション

アートレジオン推進事業に関する業務

- ・ 令和4年8月 「だいなんアートコレクション」サブディレクション・制作
- ・ 令和4年8月 「判田こどもアート学校」スタッフ
- ・ 令和5年3月 「野津原こどもアート学校」地域コーディネーター
- ・ 公式SNSでの情報発信
- ・ アトリエ管理
(アトリエ利用者や地域との連絡調整、清掃、情報発信、見学・視察の受入)



▲「判田こどもアート学校」スタッフ

「だいなんアート・コレクション」 サブディレクション・制作（令和4年8・9月）

※全体ビジュアル、テキスト、グッズデザイン、担当アーティストとの連絡調整 など

キャッチフレーズ
「いろんな シテンで
みる だいなん」も
考案しました 😊



▲個性豊かな校区によって成り立つ
大南地域での芸術祭
を表現したロゴ



▲グッズデザインも担当。プロモーション、周遊の促進、鑑賞のリピートなどが目的。普段、芸術イベントに馴染みのない方々も巻き込む。

▲大南地域 中村隊員に提供して
いただいた写真を使ってパンフレット
デザインを作成。

▶駐車スペース案内、注意書きなどの
掲示物デザイン



▲のぼりデザイン案
を複数提示



▲メインディレクターや
アーティストとの連絡調整

アトリエ見学 受入 野津原小学校3年生

(令和4年12月)

- ・小学生が野津原のことについて調べ学習をする授業。閉校した校舎の活用方法を調査しているとのことで、ななせアートスタジオや協力隊活動のことを話した。

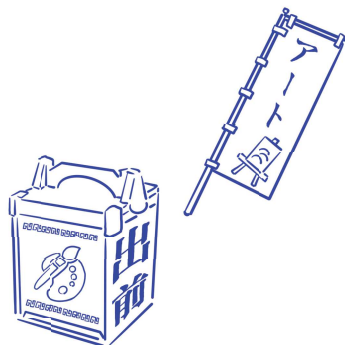
〈代表児童の感想〉

「人口減少が続き、学校も3つも閉校してしまい、元気がなくなっていると思っていた野津原で、このようにアートで地域を元気にする活動が行われていると知って嬉しくなった」



野津原小学校3年生合計22名





野津原地域にアート講座の出張！

✓ 出前アート倶楽部（全5回）

令和4年

7月/原村ふれあいサロン

9月/入蔵健康サロン

12月/原村ふれあいサロン

12月/にこにこカフェ

令和5年

1月/恵良区ふれあいの会（延期）

任務② フリーミッション

アートスキルを活かした地域活性化の企画・支援

アートを通じた多世代交流をアトリエで！

✓ ななせ美術館シリーズ（全4回）

令和4年

9月 /vol.1「一緒に参加しちゃおう アーティストとアートセッション」

9・10月/vol.2「野津原中学生とアトリエ利用アーティストのコラボアート」

11月 /vol.3「大学生と一緒に 秋のアート縁日！」（芸短大生×ふれあいサロン）

令和5年

6月 /vol.4「大学生と一緒に 春のアート縁日！」（看護大生×ふれあいサロン）

地域が主体となって取り組む実験的アートプロジェクト

✓ のつはるアート村プロジェクト

令和4年・令和5年 5月～1月/作戦会議5回、作業7回、イベント3回実施



✓ アートで地域活性化 先進地視察

令和5年

3月/東京都立川市(PLAY!PARK/MUSEUM) / 神奈川県横浜市(創造界隈拠点3箇所)





出前アート倶楽部 (令和4年7月～令和5年1月)

アート講座を希望する団体に、
講師・内容・材料をひとまとまりで派遣する事業。

これまで地域サロンや児童向けのアート講師を経験し、

もっと団体に合わせたアート講座を提案できないか？

アーティストの地域活動の場を増やせないか？

と考え、令和3年の試用期間を経て運用開始。コロナ禍の開催で
ありながらも10団体以上から問合せを受け、**5回実施**。

9月 入蔵健康サロン▶

要望：思い出に残る内容
飽きない内容
笑顔と元気が出る内容

講座：「童心にかえて！
はちめちゃトイレットペー
パーをつかったワーク！」
講師：泊麻未
参加人数：15人



◀7月 原村ふれあいサロン

要望：手作業がある内容
季節を楽しめる内容
自宅に持ち帰り使用できる作品

講座：野津原の和紙を使って、
スイカ模様のうちわづくり
講師：小野宏美
参加人数：30人



1 活動報告 任務②フリーミッション 出前アート倶楽部

12月 原村ふれあいサロン▶

要望：筆を扱えない90代以上の方でも楽しめる内容、明るい気持ちになれる内容、自宅に持ち帰りこどもや孫にも披露できる作品希望

講座：「なんちゃって点描画に挑戦！
～好きな色で話そう♪～」（講師：泊麻未）
参加人数：30人



◀12月 にこにこカフェ（オレンジカフェ）

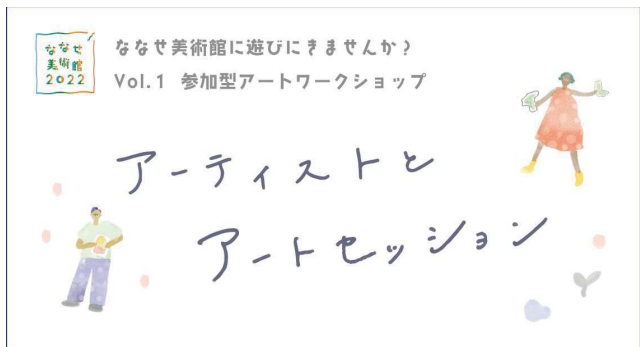
要望：前回、入蔵健康サロンで実施した内容をやってほしい
サポートにくる大学生の学びになる内容希望

講座：「工夫を凝らそう！こんなもので？！
素敵なカードづくり」（講師：泊麻未）
参加人数：40人



ななせ美術館vol.1 「アーティストとアートセッション」 (令和4年9月)

アートの敷居を下げて、アトリエと地域をつなぐ



【参加者】アトリエ利用者、地域の作家、応募で集まった一般参加者
●いろいろな画材を使って1枚の紙にリレー方式で描き加えていく。
アーティストも入り、会場の全員でひとつの作品をつくる。
参加人数：午前 12人/午後 23人 ※保護者、同伴者合わせて来場者50人



1人目が描いた作品にインスピレーションを受けて、2人目、3人目と重ねていきます。

新しいアイデアや面白い発想をアーティストと参加者で互いに伝えながら、集まったメンバーでしか生まれない作品がたくさん完成しました！



翌日の大分合同新聞▶

親子ら50人、絵描き交流
大分市でアートイベント

【大分】大分市市央の旧野津原中部小学校を会場としたななせアートスタジオで4日、市民参加型のアートイベント「ななせ美術館」が、大分市が芸術の力で地域活性化を目指す「アートレジネーション」推進事業の一環として開催された。地域おこし協力隊の泊麻未さん(29)が市民にもスタジオに親しんでもらおうと企画した。

市内外の親子連れ約50人が参加。スタジオ内のアトリエを利用するアーティストや同地域を拠点にする作家らが入り、講師を務める作家ら5人が講師を務めた。参加者は1枚の紙に少しずつ絵を加え、一つの作品を完成させるアートセッションに挑戦。最初に自分が描いた絵がどのように変化していくかを体験しながら、完成した絵には講師からサインをもらい、記念に持ち帰った。

家族4人で参加した大分市横尾の安藤羽南さん(6)は「手形を取ったり、いろんな絵を描くことができて楽しかった」と話した。ななせ美術館は今後も開催する予定。(安里美冬)

アーティストと一緒にアート体験を楽しむ参加者＝大分市のななせアートスタジオ



ななせ美術館vol.2 「野津原中学校生徒とアーティストのコラボアート」

(令和4年9月)

アトリエと地元の学校をつなぐ
(地域におけるアトリエ利活用の可能性)

【参加者】野津原中学校生（1・2年生 計32名）
●アトリエ見学、アーティストへの質問、アーティストと合作体験
→美術の専任講師がいない野津原中学校においてこの活動は鑑賞教室や体験活動などの代わりにもなった。

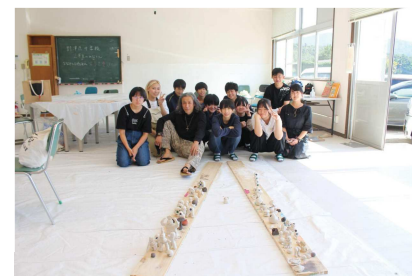
※完成作品は中学校の文化発表会にて展示。

ななせ美術館 2022 野津原中学生がアトリエに来るぞー！
Vol.2 アトリエ利用アーティストと作品制作

1年生
2年生

野津原中学校生と
アーティストの
コラボアート

野津原中学校の文化発表会
(10/22)にて展示予定！



◀▲アトリエ見学・講話

▲1年生：絵画、コラージュ、いろんな手法

▲2年生A：粘土、立体作品

▲2年生B：アート思考



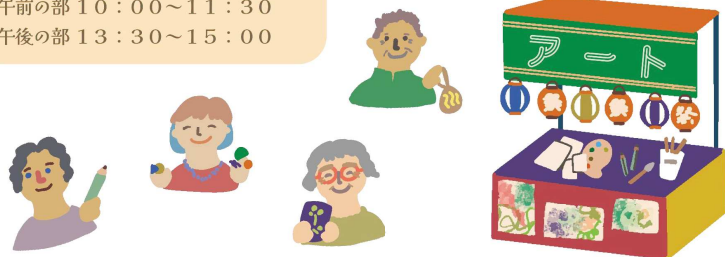
ななせ美術館vol.3 「大学生と一緒に 秋のアート縁日！」 (令和4年11月)



芸短生がアトリエに来るぞー！
Vol.3 アートワークショップを通じて地域のみなさまと交流！

大学生と一緒に 秋のアート縁日

2022/11/12 (土)・13 (日)
午前の部 10:00~11:30
午後の部 13:30~15:00



アートを通じて世代をつなぐ
(学生の学びの場としてのアトリエ利活用の可能性)

【運用】大分県立芸術文化短期大学 学生 21名

【参加団体】周辺地域のふれあいサロン (協力:大分市社会福祉協議会 野津原事務所)

周辺地域の「私たちも楽しめる体験はないか?」との声を受け、
学生と交流しながら4つのミニ講座を巡って楽しむ、
縁日のようなイベントを企画。学生は授業の一環として参加。

▶エコスタンプの巾着/指描きアート/絵しりとり/シールで壁うめつくし

- 12日(土) 太田・今畑・原村ふれあいサロン→20人、学生→12人
- 13日(日) 矢ノ原秋葉・竹の内サロン→40人、学生→9人





ななせ美術館vol.4「大学生と一緒に 春のアート縁日！」（令和5年6月）

アートを通じて世代をつなぐ（学生の学びの場としてのアトリエ利活用の可能性）

【運用】大分県立看護科学大学 学生 10名 ▶オリジナル巾着づくり/コラージュの壁飾りづくり/絵しりとり

参加者（ふれあいサロン→原村、入蔵、矢ノ原、竹の内ほか） 26名

●経緯と連携→昨年の「秋のアート縁日！」は参加者・学生双方にとって満足度の高いイベントになったことから継続して実施することに。野津原地区社会福祉協議会と連携し「秋のアート縁日！」では中部校区のみお声がけだったが今回は野津原全地域のふれあいサロンに募集をかけた。

●学生からのフィードバック

「コミュニケーションの授業で学んだ“相槌”を今日試すことができた」「自分がこれから学んでいく“看護”を具体的に感じる事ができた」



1 活動報告 任務② フリーミッション

令和4年12月放送 大分市広報番組「いいやん！大分」（OBS大分放送）ななせ美術館vol.3「大学生と一緒に 秋のアート縁日！」





のつはるアート村プロジェクト(令和4年5月～令和5年1月)

地域の方々から「**私たちもアートというものをやってみたい！地域活性化をしたい！**」という声をいただいはじまった実験的なアートプロジェクト。地域、大学、アーティスト、行政などさまざまなジャンル・世代の人々が集い、“**作戦会議**”や“**作業**”を共にしながら、アートを通じた交流の場づくりを目指します。数回にわたる作戦会議を通じて、まずは、今は途絶えてしまった民俗文化、精霊流しの「**施餓鬼舟（せがきぶね）**」をモニュメントとして再現制作していくプロジェクトとすることに決定。



◀多様なメンバーによる作戦会議。野津原流「**施餓鬼舟**」の作り方を指示できる数少ない地域の方に協力してもらえることになった。



◀材料の稲わら集めを「**稲刈り体験**」イベントに。野津原内外より、未就学児、小中大学生からお年寄りまで、30名近くが参加。地域からのふるまいも。世代も地域も違うメンバーに絆が生まれ、**野津原の関係人口**が少しずつ増えていく…



1 活動報告 任務②フリーミッション のつはるアート村プロジェクト

▼舟づくりの作業は、参加者が次々と増え、多世代交流の場に。計100名近くが携わった。



半年かけて**無事に完成!**

▼無事に再現できた「舟」のおひろめ会。
地域内からも地域外からも鑑賞に。
制作過程の写真や「施餓鬼舟」の資料も展示↓



舟

ランチルームでワークショップや
写真展示を楽しむ参加者

同時開催のアートワークショッ
プは若手の出番!
教える立場が逆転😁



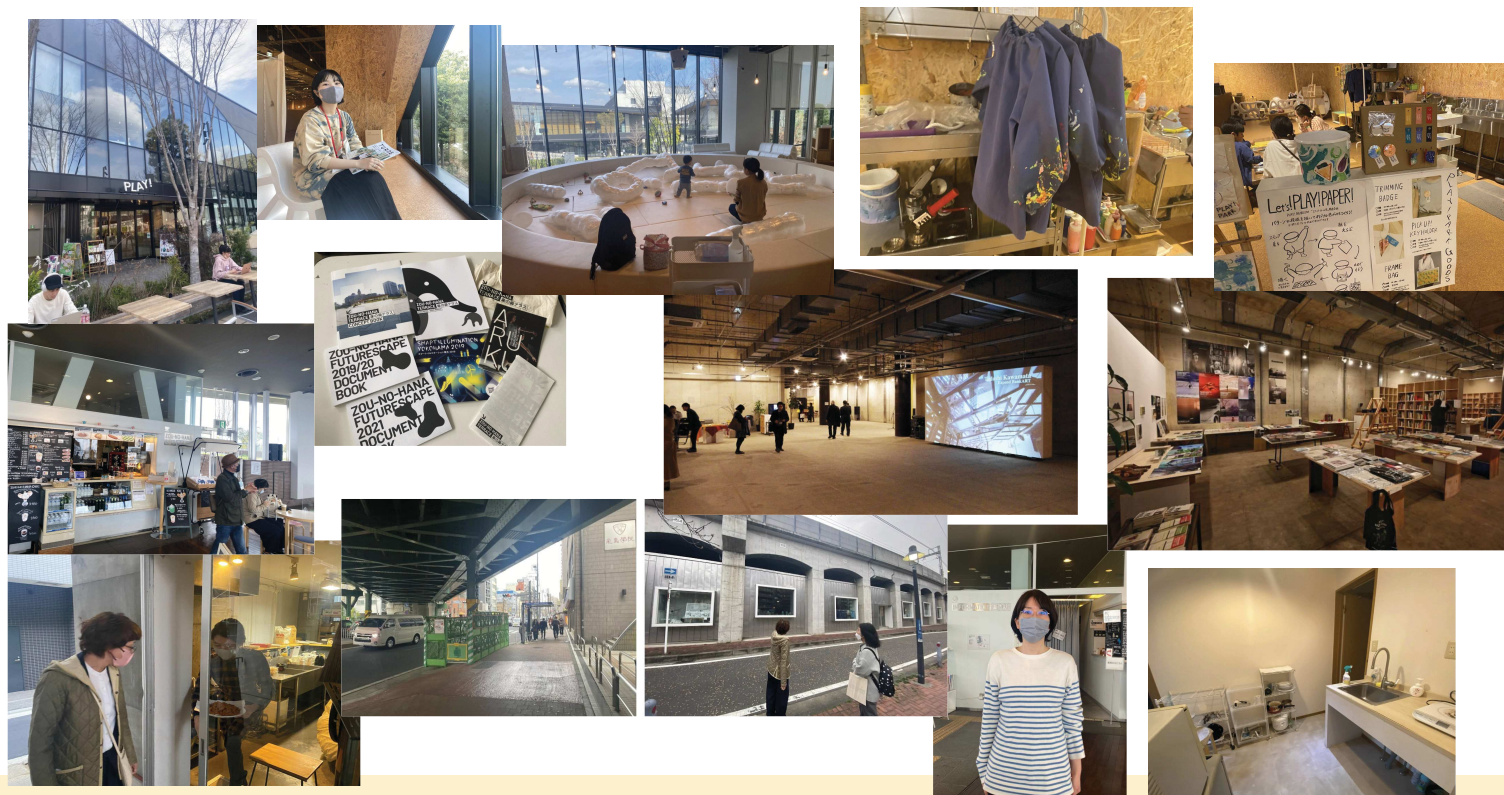
▲「舟づくり」から発想されたアートワークショップは地域の作家が考案したもの。
特に後半は地域が主体となって楽しみながら活動していた印象。

アートで地域活性化 先進地視察（令和5年3月）

文化芸術の振興におけるNPO法人や民間との連携事業、地域密着型のアート事業など

(1)立川市(PLAY!PARK/MUSEUM)

(2)横浜市(創造界隈拠点) -1 象の鼻テラス-2 BankART 1929(文化芸術創造発信拠点)-3 初黄・日ノ出町地区(地域再生まちづくり)
アートレジオン推進事業にも、卒業後にも活かせるような視察先をリサーチ。可能な限り施設担当者や行政担当者にアポを取り、視察を行った



▼内観(休憩所として平日も多くの人が利用。カフェでの注文はマストではなく、外から持ち込んでもOK。カフェでは地元の特産品を使ったメニューを意識。)



▼市民に配布している報告資料、話を聞いた大越さん



②ヒアリング
担当:株式会社ワコールアートセンター 大越晴子さん

Q 横浜市とはどのような連携を行っているか

A 横浜市から委託を受けて、委託費と、別部署からの予算、カフェの売上、協賛等で運用している。外のエリア(象の鼻パーク全体)を活用したイルミネーションやマルシェ等のイベントをする場合の許可申請は、横浜市と連携して行う。

Q スタート時からこれまで連続で委託を受けているが、行政と共に事業を行うポイントはなにか

A ●行政も委託側も、実験期間を設けること。
●知識と経験が豊富なディレクターをひとり立てること。
●プロジェクトのカタチがだんだん変わっていくと自身を「創造都市」の一端として認めること
(例:最初→認知度のアップと機能性の調査、中盤→コンセプトの定着化と、アーティスト交換留学の企画で、まちづくりクリエイティブディレクターごと交換留学するように...、最近→徐々に市民の能動的なプラットフォームになりつつある)

Q 今後、行政にどのような面をサポートしてもらえればいいか

A 行政から委託を受け、無料休憩所として公益性を重視した取り組みを行っているが、公益性に偏ると継続や民間での自走が難しくなる。もっと行政と連携し合いながら、継続できる仕組みをついていきたい。

▲ 視察内容の報告書(一部)

任務③その他 協力隊として参加した業務

【講演】

- 大分大学工学部創生工学科建築学コース2年生「建築計画1」
ゲスト講師（30名程度）（令和4年7月）

【アート講座】

- 大分県立図書館（学校・地域支援課）主催
「企業・高校等を活用したチャレンジ教室開発事業：小学生チャレンジ教室」
ワークショップ講師、会議参加（令和4年12月）

【他課協力】

- 観光課が実施するJR大分駅 構内
たかもんディスプレイへの協力
企画・制作・設置作業など
（令和4年7月）





卒業後の定住を目標に
個人活動



「ななせ美術館vol.1」
キービジュアル

※個人活動

- ・ 令和4年9月 ①MMアトラボ（=泊）主催アートワークショップ「STAY AND TALK」開催（8名参加） @一之江、東京
- ・ 令和4年10月 ②のつはるhiroちゃんCafe（マルシェ）似顔絵ブース出店 @hiroちゃんHouse、野津原
- ・ 令和4年10月 ③就労継続支援事業所のみなさんと一緒にハロウィンの空間装飾制作 @ふないアクアパーク、大分市
- ・ 令和4年11月 ④「第37回 のつはる ななせの里まつり」アートワークショップブース出店 @のつはる天空広場
- ・ 令和4年11月 ⑤講座「実践！アート思考」ブリヂストン労働組研修会 講師 @ブリヂストン久留米工場
- ・ 令和4年12月 NPO法人OMAP主催「こどもアートフェスタ」ライブペイント @大分市コンパルホール

その他 ●アートに関する講演（宮崎、福岡など）→地方自治体、民間企業など
●⑥アウトリーチ→おおいた障がい者芸術文化支援センターからの依頼（特別支援学校、福祉施設）

①



②



⑤



③



④



⑥



※個人活動



「東アジア文化都市2022大分県」文化団体連携事業 「宇曾山荘アートホテル化計画」2022 企画・ディレクション

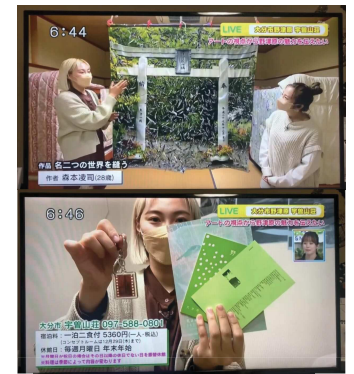
【概要】若手アーティストによる「大分市宇曾山荘」での滞在制作と作品展示。
アーティストは事前に野津原を調査。その後11月1～3日の3日間「大分市宇曾山荘」内で滞在制作を行い、同部屋内に展示。最終日のトークイベントでは作品の説明や滞在制作の感想を交えながら、大分県の文化芸術について議論する興味深い時間となった。2022年12月末まで宿泊が可能で、宿泊者（鑑賞者）は作品鑑賞を通じて野津原を楽しむことができる。12月には県の担当3名が視察に訪れた。



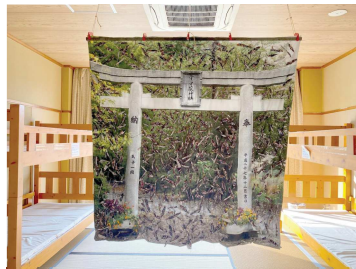
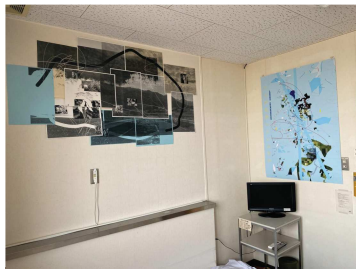
▲アーティストは野津原に何度も来て、地域に話を聞いたり、イベントに参加したり、文献資料を探したり、実際に山に登ったりしてリサーチを重ねた。



▲大分合同新聞



▲「ゆ〜わくワイド」
TOSテレビ大分 生中継



▲3組により完成した3つのコンセプトルーム。トークイベントは目標を超える30名以上が参加。地域アートの新たな可能性を感じられた。

2 活動の成果、 活動を通じて得たこと



「のつはるアートコレクション」
キービジュアル

移住雑誌「TURNS」 2023年2月号
「地域とアートを繋ぐ旧小学校アトリエ
泊麻未『大分県大分市野津原』」掲載

2 活動の成果、活動を通じて得たこと

→これからの地方創生で注目！ 多世代で地域アートを実践

アートのしきいを低く、楽しく

- 誰でも親しみやすい企画づくりを意識。
より多くの方に活動に参加していただいた。



多世代交流の場

- 幼児・小・中学校・高校・大学生・大人・高齢者。いろんな世代を組み合わせた企画で世代間交流を行った。
- 学校、自治体、社協、公民館、活動団体…いろいろな機関と連携。
- アトリエでのアート体験やプロジェクトは世代や分野、業種を超えて共通言語に！

アーティストにとっての「地域アート」実践の場

地域にとっての「アート発注」実践の場

- 地域と交流しながらアート活動がしたいアーティストを積極的にサポート。地域の魅力を再発見するような作品を制作したり、アート講師の経験値を上げることにもつながった。アーティストとして生活することを、アーティストと一緒に考えた。
- 団体活動に講師を呼んだり、アートを生活に取り入れようとする市民が、まずは相談してくれるように。“アートやアーティストとの付き合い方”を一緒に考えた。



〈嬉しい“地域の変化”〉

- 作品をつくって見せに来てくれる人が増えた
- 本来、野津原に接点のなかった人が野津原の人たちと交流している
- 卒業論文のテーマに野津原を選んだ大学生
- 地域の人×アーティストでコラボ作品
- 野津原にアトリエを新設
- アトリエでの活動に大分県内の若手アーティストも参加するように…

野津原＝アートという印象

「野津原って、アートかなにかやっているとこでしよう？テレビや新聞でみたよ！」着任して2年はコロナ禍で活発に活動できなかったが、活動を重ねるうちに対外的にも発信できるように！

2 活動の成果、活動を通じて得たこと

活動を通じて得たこと→アート企画のスキル、つながり、ワークショップの経験

1 企画・ディレクションの経験・スキル

自身が主催する企画のみならず、文化振興課主催のイベントにも積極的に関わらせていただいた。企画の組み立て方、予算の使い方、アーティストはじめ関係者との調整、他機関との連携、事業計画についてなど貴重な学びがあった。プライベートで文化庁関連の補助金等や自治体委託事業なども経験。地域や自治体に入って活動できる協力隊ならではの経験値となった。

3 ワークショップの経験・スキル

こどもからお年寄り、アートに興味がない方へ向けたものなどいろいろなワークを行った。プライベートでもアウトリーチの依頼をいただき、元々の専門でもある演劇や演技分野も取り入れながら県内外で講座を行った。今後も、自治体、民間企業、イベント、観光、研修などさまざまな場所で講座を行っていきたい。

2 つながり

前半は地域や職員、県内のアーティストと、後半は文化芸術の団体、県内外の協力隊、大学や学生、県外のアーティストとも交流が生まれた。協力隊だからこそスピーディーにいろいろな人とつながることができた。

4 協力隊着任時の目標も達成！？

「アートを通じた交流の実践を重ねたい」という当初からの目標を実現することができた。今のコミュニティを活かしながら次のステップに進みたい。

3 卒業後



「西部の楽校」パンフレット挿絵

3 卒業後にむけて

大分市に残り、活動の場を広げつつ、アート関係の仕事をする予定。
目標である「アートをきっかけに人が集まる場所」づくりも進めていく。

屋号は

LOCAL ART PROJECT



アートワークショップ講師・講演

- ・アート、身体表現、心ほぐしのワークショップ
- ・アートの楽しみ方・アートの必要性・地域アート・アート思考などをテーマにした講演

→福祉施設、ふれあいサロン、企業等で実施

アートの企画/ディレクター

- ・アートプロジェクトや芸術祭にディレクションとして参加する
- ・地域拠点事業、メンター（※）として学校等団体への協力、移住や仕事相談員
- ・助成金のマネジメントや、大学と授業カリキュラムの研究など

※メンター＝信頼できる相談相手や助言者の意味。適宜、助言や指導を行い、メンタルサポートを担当する人物を意味する。厚生労働省から平成24年度に「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」も公開されており、企業や起業支援、学校現場等で積極的に取り入れている。

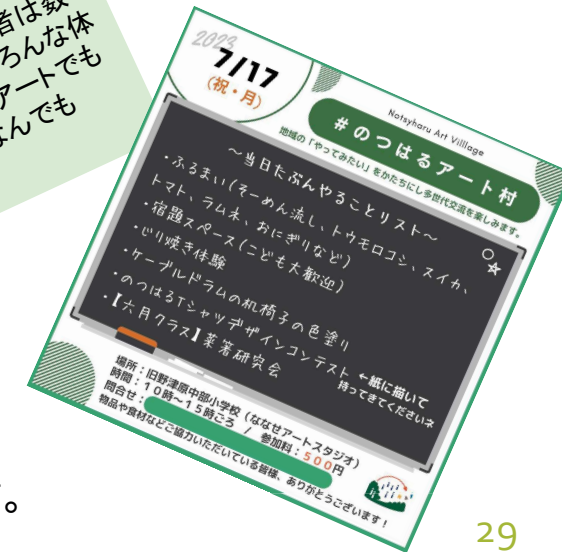
拠点づくり

- ・アートパーク、アート体験施設 など（構想中）

※協力隊事業のひとつ「のつはるアート村プロジェクト」を派生させ、ボランティア団体「アート村」を結成しました。

旧野津原中部小学校の一部屋を“地域利用枠”でお借りし、今後も定期的に活動を行います。

地域の方々が「先生」になって、体験ブースを行う。参加者は数カ所のブースを回り、いろんな体験ができる。食事でもアートでも工芸でも知識でも、なんでもOK!



最後までご清聴ありがとうございました

今後ともよろしくお願いたします ✨



ななせアートスタジオ(旧野津原中部小学校) ランチルーム